

## 研究懇談会活動報告

### 1) 構造系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ／講演者	参加人数	講演概要
1	1月26日	講師：佐藤起司氏・山我信秀氏 講演題目：「2014年度南米建築視察団 ブラジル・ペルー視察研修」	40名	H26年9月に構造系懇談会代表幹事の齋藤公男日本大学名誉教授を団長として企画されました「南米建築視察ツアー」に参加された二人の卒業生による講演でした。メインの視察先であるブラジルでは、2014年のワールドカップが開催されました。また2016年夏季オリンピックの開催に向けて施設整備が急ピッチで進んでいます。ブラジルの新しいスタジアム建築や、オスカー・ニーマイヤーの建築など、話題の建築について視察の様子を報告頂きました。
2	2月15日	現場見学会 川崎河原町分譲共同ビル耐震改修現地見学会	14名	川崎市河原町団地は大谷幸夫氏の設計で築42年の集合住宅に残る名建築である。本会の川崎設計坂東氏の厚意により企画されました。耐震改修の設計および工事計画の説明を受けた後、現場見学を行いました。

### 2) 海洋系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ／講演者	参加人数	講演概要
1	6月5日(木)	英虞湾における水域環境保全の取り組み／高山百合子氏(大成建設)	47名	現在の日本における自然環境の減少速度が増加していることから、環境保全の重要性について説明して頂き、環境を保全していくために必要な3つの項目について、わかりやすく説明して頂きました。「①沿岸域の生態系の重要性」では沿岸域自体の生産力・水質浄化・親水について、「②環境アセスメント」では環境の悪化を未然に防止するための調査・予測・評価・情報公開について、「③ミチゲーション」ではその在り方について説明して頂きました。 また、干潟造成や藻場造成の実際の事業についてや、バリ島を対象地としたサンゴの移植についても実例を踏まえて説明して頂きました。 学生からの質問も多々あり、講演後も活発な議論がなされ、非常に有意義な講演となりました。
2	6月19日(木)	世界の海洋油ガス田開発の現状／浅沼貴之氏(石油天然ガス・金属鉱物資源機構)	71名	わが国のエネルギー調達の現状を概観したうえで、現在進められている各国の海底油田/ガス田開発について講演をいただきました。具体的には資源国との関係強化の橋渡しを担いながら、資源掘削に関する技術開発や支援事業の展開や、海底資源開発に関する調査技術の紹介をいただきました。また、こうした業務に携わるにあたり、海洋建築工学科で学ぶ内容が現在も生きているというご自身の経験に基づいた率直なお話を頂き、講演終了後には活発な意見交換が行われました。
3	10月9日(木)	超高齢化時代の都市開発／橋本直樹氏(都市再生機構)	113名	日本住宅公団、住宅・都市整備公団、都市基盤整備公団、都市再生機構と組織名称を変えてきた背景や業務内容の変遷をわかりやすく整理した。その上で、これまで都市機構が全国で供給してきた多数の団地、ニュータウン、再開発ビルなどを、これからの超高齢化社会に対応させるため、どのようなアイデアで維持改修管理していくのか、その戦略などを、具体的な事例に基づき解説された。特に、船橋校舎に近い習志野台団地を取り上げ、リノベーションやコンバージョンのアイデアを披露した。
4	10月16日(木)	新しい環境建築への試みーアーバンフィジックスとの共生に向けてー／新聞英一(清水建設建築設計部)	111名	まず最初にゼネコンにおける建築設計部の役割と特徴について説明した。具体的にはゼネコンの組織規模と土木・建築の体制について言及し、さらに建築設計部の役割についてわかりやすく整理した。その後、自身の設計した建築物の特徴について写真を元に解説した。特に江東区に設計施工された日本ヒューレットパッカートの本社ビルについて時間を割いて説明した。このビルの特徴は、執務空間を人間の生活環境に近づけるべく、温度、湿度、調光等を自動的に制御する工夫をさりげなく施しているところにある。コンピュータを扱う会社にふさわしい自動制御の仕組みと、人間工学に基づいた快適な建築空間の融合を目指した建築のあり方を示した。
5	10月23日(木)	建築構造設計の醍醐味と個人設計事務所経営／佐藤岳人氏(TS構造設計)	113名	これまで構造設計者として手掛けてきた建築作品(2010年日本建築学会賞作品賞受賞)等について紹介して頂くとともに、建築構造設計の役割と醍醐味について講演して頂いた。また、個人設計事務所開設するために必要な事柄や経営内容について解説して頂いた。
6	10月30日(木)	海洋建築工学科を卒業してからゼネコンマンに成長するまでの道のり／池田一典氏(大成建設)	112名	ゼネコンに就職して、工事係から現場主任そして現場所長に至るまでの仕事の内容や施工管理で携わった建物について紹介して頂いた。施工管理に関するお話では、単なる技術的な品質管理に関する内容から現場マネージメントに関する内容まで多岐にわたり解説して頂いた。
7	11月6日(木)	船橋市の魅力と活力を高める基本政策／松久悠貴氏(船橋市企画財政部)	108名	東京都心から30分以内と至便で、農業・漁業とも活力に満ち、大規模商業施設や公営ギャンブル施設が立地し、三番瀬という東京湾の貴重な干潟が残る人口61万人の船橋市の変遷と将来動向を解説された。人口が増加傾向にある当市の勢いを継続するための基本政策を紹介された。特に、JR船橋駅周辺を中心市街地と、ららぽーと等の大型商業施設や船橋漁港のある臨海部を有機的につなげるための回遊性向上プランを詳しく説明していただいた。

8	11月13日 (木)	人口減少時代における企画営業戦略／藤井高志氏 (JFEエンジニアリング)	111名	人口減少、少子高齢化、東京一極集中と地方の衰退が危惧されるわが国において、郊外から都心への転居を誘導するコンパクトシティ化など、今後、都市開発に求められる新しい発想の企画営業戦略の考え方を解説された。講演者の藤井氏は、いずれも大手のゼネコン、不動産会社、エンジニアリング会社という3つの会社を転職してきた経緯を振り返りながら、これからの建設業界で重要となる発想や求められるスキルについて説明した。
9	11月20日 (木)	海洋関連プロジェクトにおけるコンサルタント業務と予測技術の役割について／弘中真央氏(三井共同建設コンサルタント(株))	107名	建設コンサルタント業界の現状と建設コンサルタントが担う社会的役割について分かりやすく解説され、自らが担当してきた業務を事例として建設コンサルタントとしての調査技術や業務内容について説明された。また、建設コンサルタントを目指す場合に、基礎として学生時代に重要な学習内容等についても説明された。
10	11月27日 (木)	海洋構造物等の設計／村松孝(サンユウシビルエンジニアリング)	110名	海洋構造物のは海洋石油開発と共に発達してきた工学分野であり、多くの種類の海洋構造物とその機能についてご紹介いただいた。特に海洋石油生産のための海中システムを含む全体システムについても説明していただいた。さらに、浮体式生産システムのFPSOの設計業務の役割と講演者が経験したその具体的な構造設計プロセスや構造的技術課題の克服を詳しくご紹介いただいた。

### 3) 計画系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ／講演者	参加人数	講演概要
1	4月30日	オウケンカフェ#10／坂下加代子	30名	中央アーキ(上領大祐＋坂下加代子＋松本悠介)の活動を紹介。
2	6月4日	オウケンカフェ#11／中川純	40名	建築家・中川純の活動を紹介。
3	6月25日	オウケンカフェ#12／いしまるあきこ	26名	きっかけ屋・いしまるあきこの活動を紹介。
4	7月23日	オウケンカフェ#13／大島芳彦	29名	建築家・大島芳彦の活動を紹介。
5	9月24日	オウケンカフェ#14／北澤潤	41名	現代美術家・北澤潤の活動を紹介。
6	10月29日	オウケンカフェ#15／坪倉正治	25名	医師・坪倉正治の南相馬市立総合病院での活動を紹介。
7	11月26日	オウケンカフェ#16／アサダワタル	48名	日常編集家・アサダワタルの活動を紹介。
8	12月17日	オウケンカフェ#17／齋藤桂太	24名	アーティスト・齋藤桂太の活動を紹介。
9	1月27日	オウケンカフェ#18／田中浩也	20名	Fablab・田中浩也の活動を紹介。

4) 材料施工系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ／講演者	参加人数	講演概要
1	5月 17日 (土) 14:00～17:00 18:00～20:00	定年記念講演(14:00～17:00) ①「液状化」 日本大学生産工学部 川村政史 ②「五感と評価試験方法」 日本大学生産工学部 松井勇 ③ 定年退職お祝い会(18:00～20:00) 於:東京ガーデンパレス2F天空	39名	①地震による液状化について①液状化現象とは ②液状化による被害状況 ③液状化の判定方法 ④再液状化はあるか否か ⑤考古学から見る液状化 ⑥液状化防止工法 などについてご講演いただいた。 ②これまで、視覚、聴覚、皮膚感覚、嗅覚によって経験的に評価されている仕上材料の性質を物理的な数値によって定量的に評価する試験方法を開発してきた。試験方法開発に至るまでの経緯と苦労した点を紹介いただいた。 ③定年を迎えられた2名の先生の定年退職お祝い会を行った。
2	8月 31日 (日) 14:00～17:00 17:30～19:30  9月1日 (月)	「第39回研究講演会」 会場:ものづくり大学 ① 研究講演会(14:00～17:00) 応募者有志 ② 懇親会  ③ 懇親ゴルフ大会 場所:未定	33名	・最近公表された研究成果を発表・紹介いただいた。 発表件数21件
3	12月 20日 (土) 14:00～17:00	①「人脈は宝なり」 日本大学理工学部 飛坂基夫 ②「良好な鉄筋コンクリート造建築物をつくるために」 日本大学理工学部 榎田佳寛 ③ 懇親会	39名	①日本大学理工学部、建設省建築研究所、建材試験センターなど、大学、職場、委員会等において今までお付き合いしてきた人を振り返り、今までの仕事内容などをご紹介いただいた。 ②今まで建設省建築研究所と宇都宮大学で行ってきた研究をもとに、現在のコンクリート工学の分野で何が問題となっているのか、研究者・技術者は何をどうゆう主旨で研究しているのか、法令や基準では品質確保のため何が規定されているのかについてご紹介いただいた。
4	3月 14日 (土) 14:00～17:00	①「日本の鉄筋コンクリート建築－歴史・文化・技術－」 日本大学理工学部 和美廣喜 ② 笠井芳夫賞(優秀修士論文賞)表彰式ならびに笠井芳夫賞受賞修士論文発表会 ③ 平成27年度定例会計画 ④ 懇親会	40名	①日本の鉄筋コンクリート造の出現から現在に至るまでの歴史、西洋模倣期から日本の伝統・文化を反映した建築様式への変遷そしてその技術的背景を自ら探索した記録写真によってご紹介いただいた。 ②平成26年度笠井芳夫賞表彰式行い、受賞学生に修士論文を説明いただいた。 ③平成27年度の定例会の予定決めを行った。 ④講演者と笠井芳夫賞受賞者を囲み、その門出を祝った。

5) 環境技術系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ／講演者	参加人数	講演概要
1	10/23(木)	「ZEBの潮流。建築デザインと環境デザインの融合」  講師:沼田 和清氏 (株)大林組本社 設計本部 設備設計部長 平成元年3月理工学部建築学科卒業)	会員13名 学生16名	テーマⅠ:ZEB入門 建築業界では、この3～4年ほどでZEBという言葉が定着してきた。一方では計画の現場において、その本質が十分に理解されているとは言い難い状況も散見される。 この状況を踏まえ、建築系/環境系/計画系/施工系を問わず今後建築業界を目指す人向けに、今知っておくべき「ZEBの基礎的事項」「ZEB化の実施例」「世界の取り組み動向」について概説する。  テーマⅡ:建築デザインと環境デザインの融合 「大林組技術研究所 材料化学実験棟」建設プロジェクトを通じて融合事例を紹介する。 本建物は「建築と設備の高次元での融合」が高く評価され、2011年「グッドデザイン賞(経済産業省)」,2013年「第11回環境・設備デザイン賞(社)建築設備総合協会」,2014年「第52回空気調和・衛生工学会賞特別賞(社)空気調和・衛生工学会」を受賞した。今日「建築デザインと環境デザインの融合」の最適解の一つとして、Lab設計者、大学や化学品・医薬品メーカーなどを中心に、その存在が広く認知され始めている。
2	12/18(木)	「避難生活と二地域居住」  講師:浦部 智義 先生(日大工学部建築学科 准教授)	会員10名 学生17名	東日本大震災及びその後の原発事故(以下3.11と略)の影響で、未だ数多くの福島県民が、それ以前の住まいやまちを離れて避難生活をしている。3.11から3年経っても元の住まいやまちに戻ることが容易でない福島県の状況を鑑みながら、仮設住宅の次には集合住宅型の「復興公営住宅の整備」といった、一本道ではない住環境づくりの可能性を考察してみたい。